

議長定例記者会見 会見録

日時：平成30年12月21日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 発表事項

- 「平成30年 三重県議会の活動10大ニュース」の発表について

2 質疑項目

- 「平成30年 三重県議会の活動10大ニュース」の発表について
- 1年の総括について
- 知事の進退表明について
- 会派運営について
- 請願、陳情、意見書について
- 議会経費削減について
- 第三者機関の設置について

1 発表事項

- 「平成30年 三重県議会の活動10大ニュース」の発表について

(議長)おはようございます。ただ今から、12月の議長定例記者会見を開催させていただきたいと思っております。なお、今回が、通算100回目の議長記者会見だということでございますので、記念すべき100回目の記者会見の中で、お時間をいただきましたことを感謝申し上げる次第でございます。なお、本日の発表事項につきましては、平成30年の三重県議会の活動10大ニュースについてであります。お手元の資料をご覧くださいと思います。三重県議会の活動10大ニュースは、県議会の取り組み状況を広く発信させていただき、県議会への関心を持っていただき、参加意識を高めていただくために、県民参加の手法を活用して選定を行わせていただいております。選定結果につきましては、お手元の資料に掲載の10項目でございます。選定にあたりましては、資料2ページの投票結果にありますように、「ホームページ閲覧者と県議会傍聴者」、「e-モニター」、「議員」の得票数などを参考に、副議長とも相談させていただいた上、10項目の選定をさせていただきました。今回の投票結果を見てみますと、「みえ高校生県議会」の開催、障がいの有無にかかわらず誰もが共に暮らしやすい三重県づくり条例の制定、議員の定数・選挙区等の見直し、議会経費の削減など、正副議長で大きなトピックであると思っていたものは、やはり得票数が多かったという印象でございます。発表事項につきましては、以上のとおりでございますが、今年一年間皆様方にも大変お世話になりましたこ

とを感謝を申し上げますとともに、来年も引き続きご協力を賜りますことをお願いを申し上げ、私からの発表とさせていただきます。よろしく申し上げます。

2 質疑応答

○「平成30年 三重県議会の活動10大ニュース」の発表について

(質問) 発表事項に関しまして、幹事社から。議員定数の関係がやはり得票数が高くなっていると思います。14、17いずれも得票が高くなっていると思うんですけど、これ当初は、項目にいれてなかったところなんですけれども。

(議長) 議員定数は、入っていました。

(質問) 入ってたんですか。何が入ってなかったんですか。後から入れてきたのは何ですか。

(議長) 後から入れたのは、検討途中のものは除くという考え方の中で除かしていただいていたのですが、ご指摘をいただいたのは5番目の「みえ県議会出前講座」。追加をしたのはあと大規模(災害)と議会経費も現在進行形のものにしようということで(表現を)追加をして3項目今回10大ニュースに入ってきたということでございます。

(質問) 失礼しました。これがとにかく得票率かなり高くなってますけれども、今年一年の県議会を振り返っても、やはり、かなり大きなトピックだったんじゃないかと思えますけど。改めて議長としてここに県民の注目が集まっているということに対しての感想をいただけますか。

(議長) はい。10項目に対してということでもよろしいですか。

(質問) 議員定数のことに関して。

(議長) 議員定数に対してということですね。おっしゃられる通り私自身も、今年一年間振り返る中で、大きな案件だったと認識しておりますし、結果として51に戻ったという形の中で再度45に戻すという議提議案を出されたところでもありますけども、そのことは、議論経過も含めながら真摯に受け止め、そして、また、議長の所信表明の公約の中でも、第三者機関の設置も対応させていただいて取組をしてきたところでもあります。残念ながら現在のところは全会派でのご理解がいただけないということもございますので、基本的にはこれからも不断の見直しを続けていきたいと思っております。

(質問) 県民には分かりやすい動きだったと改めてこの1年経てみて思われますか。議員定数のこの1年の動きというのは。

(議長) 十分ではないと思っておりますが、その中で最大限の取組もさせていただいてきたのかなと思っております。

(質問) 最大限の取組というのは、何をさされておっしゃってるのですか。

(議長) その都度、(議論の経過は) 県議会だより等も発行させていただいておりますし、議会での議論を含めながら、オープンでの議論という形の中で議論を深めさせてきていただいたと思っております。

(質問) 同じ件なんですけども、いろいろ上がってますけれども、今年の県議会、一般の県民の人から見て覚えがあるとすれば、自分たちで決めた定数削減を自分たちで勝手にやめた。その中で、泥試合をしている中で高校の出前講座で汚い言葉を使う議員がいたとか、非常に悪い印象のことばかりが表に出てきているという印象で、一言で言って最悪の一年だったんじゃないかと思うんですけど、議長を務められててどのように感じられましたでしょうか。

(議長) 最悪の一年とは思っておりません。大変な激動な一年だったとは認識しておりますが、今までにない議提議案での定数の変更、あるいは、本来であれば二元代表制の下で一枚岩になっていかなければならない議会運営の中で少数会派が10会派に増えたということも含めながら二元代表制の一翼を担う一枚岩になかなかなくていかなかったということが最大の私自身としては課題だと思っております。鋭意これからも一枚岩になれるように議会として執行部と対峙できるような形に進めていかなければいけないという思いであります。

(質問) 選挙の前の年なので仕方が無いのかもしれないですけども、ここには上がってないんですけども特別委員会1つも、この障がい者のやつが終わってからないですよ。これはかなり久しぶりのことだというふうに伺ってますけれども、結局、自民党と新政みえが仲違いのような状況でお互いが全然、話ができない中で、特別委員会を1つも開かない状態がずっと続いている、これは果たして県民のためになっているのか、対立すること自体が目的というか中心になっていて、あまりまともな議論ができない一年だったという印象を受けます。

(議長) 定数問題に絡めてということですか。

(質問) そうなんだけれども、議長になられたときに特別委員会は新たに作るという話があったと思うんですけど、結局作りませんでしたよね。これはかなり久しぶりの状況だと伺っておりますけれども、これ自体、当時、議員さんの中で別に特別委員会を作らなくてもいいというふうにおっしゃってる方が何人もいらっしゃいましたけれども、じゃあ普段から何のために県議会議員はいて、何のために特別委員会をずっとやってきたのか。それは県民のためだったんじゃないのか。そういうことを、もうしなくてもいいというようなことが平然と代表者会議の中の発言でもありましたけれども、そういうようなこれは一例ですけども、まともに議論ができる状況に、この一年ずっとなかったんじゃないかと思うんですが如何でしょうか。

(議長) 特別委員会じゃなくて第三者機関。

(質問) 特別委員会をつくると言って1つも今ないでしょ。これは、一例だけれども三重県議会がまともに議論できる状況にないことの1つの現れた現象ではないかと指摘しているんです。

(議長) 特別委員会がないということに対して、自分はその代表者会議に、特別委員会設置の時点での代表者会議には入らせていただいてなかったので詳細の一部の報告しか聞いておりませんが、全く影響はなかったかと言えばそうでもないと思いますが、いろいろと設置に向けた議論は深めさせていただいて聞いておりますし、その中で一年間、特別委員会として検討していく対象としてなかったという報告を聞いておりますので、影響がゼロだったということも言い切れませんが、その中で項目の整理もしながら議論を深めさせていただいた結果だと思っております。

(質問) 県政にいろいろ課題がある中で特別委員会で議論することが一つもないというのはあり得ないと思うんですけども、今は執行部に対して二元代表制として議会ということ、自身でもおっしゃいましたけれども三重県議会は議会改革が進んでいて、執行部に対して、対峙ができる議会なんだということをずっとご自身たちでもおっしゃってこられましたけれども、この一年間を見てると、とても執行部と対峙できる状況にもなかったと思うんですけど。三重県議会が議会改革先進県であるということはもはや、過去のことになったんじゃないかなという印象を受けるんですけど、これについてそういう指摘はあたらぬと前にも会見で前田さん、おっしゃいましたけれども、やはり私はそうで

はないかと思うんですけれども如何でしょうか。

(議長) 執行部と対峙しての是々非々の議論はそれぞれの議員がそれぞれの会派で取組をさせてきていただいた部分だと思います。ただ、議会全体として一枚岩となって執行部と対峙してというその議論する政策課題というのもなかったというのもあると思うんですがそこまでは至っていないというところでもございますし、議会運営の中では、少し、先程もお話させていただきましたが、第三者機関の設置等々含めながら、なかなかご理解いただけない部分もあったということも含めながら、政策課題も含めて、少し、議会運営の部分の中でも反省すべきところはあったのかなと思っております。

(質問) ありがとうございます。

○1年の総括について

(質問) ちょっと同じような質問になっちゃうかもしれないんですけど、一応、今日最後ということなんですが、この1年を総括していただいて、議長として、あと、副議長もこの1年の総括を、一言いただけますでしょうか。

(議長) はい。先程来からの話でございますし、ちょうど議長に就任させていただく前に、定数としての議提議案が3月にございました。その中で、議長選ということで、1年間、自分自身は半年でございますが、議長として、なんとか今お話したような議会を、10会派に分かれた中で、議会運営を円滑に進めていくように、あるいは、定数問題に対しても第三者機関を設置しながらさらに検討を深めていければという思いで取組をしてきたんですが、なかなかご理解がいただけなかったというものがございます。一方で、議会経費の削減については、昨日の旅費等々の改正については合意が図られたところでもありますし、報酬、政務活動費等々も含めながら昨日プロジェクト会議で進んできたという報告もお聞きしておりますので、そういった部分も含めながら、県民の方々にご理解をいただける活動として、取組をしてこれたのかな、というふうにも思っております。

(質問) 副議長如何でしょうか。

(副議長) はい。今お話が出てましたように、三重県議会が議会改革推進県としての先頭をきっていた時代から見ると、後退しているのではないかという、そういうお話もございましたが、私はそんなふうにも思っておりませんし、みんなが一生懸命になって頑張ってる姿は理解をできます。ただ、選挙年であつ

たことも影響しているんだと思うんですが、議会が、執行部と対峙をするような政策課題を作れなかったということが、少し後退をしているというイメージに繋がっているのではないかと、というふうに思っています。それはまた、特別委員会を作れなかったってということもそれにあたるのではないかと、というふうに思います。そういう意味では反省もしないかな、なんですが、しかしまた、改選後にはしっかりと議会改革推進を進めていける、そんな議会を目指して頑張っていきたいなというふうに思います。

—第二県政記者クラブの方も含めてお願いします—

○知事の進退表明について

（質問）昨日の本会議で、知事は進退表明をまだ言われなかったですけど、年越えするっていうのは、本来任期近くになってる、今までの歴代の知事のあれからいくと、異例とは思いますが、その辺議会としてはどういうお考えなんですか。一応代表として、議長はどんなお考えですか。

（議長）はい。議会としては早期に所信表明を、出る出ないを含めながらしていただいた方が、予算編成も含めながら、暫定的な予算編成という話でありますので、いいのかなと。行政としての運営としては、好ましいのかなと思うんですが、これはもう政治家としての出处進退の話でございますので、知事のお考えのもとで、議会としてはできるだけ早期に表明いただければと思っております。

（質問）懇談された時に、雑談でも、そういう要請はされたんですか。

（議長）いえ、要請はしてないです。私の個人的な思いとして、今述べさせていただいたところであります。

（質問）副議長は如何ですか。知事与党なんだけども。

（副議長）はい。知事与党と言われると非常に恐縮するんですが、知事の日頃の言動を見ておきますと、決して知事選を拒否してるっていう、そんな態度にはまったく見えませんので、引き続き県政を担ってもらえるものというふうに私は確信をしておりますけれども、ただ表明が年末の段階でなかったことは、少し寂しいなっていう思いをしておりますが、年頭の始まりには、しっかりとお答えをいただけるのではないかと、というふうに思っております。

（議長）私、暫定的って申しましたね。骨格的予算ですね、失礼しました。日

本語が間違っております。

(質問) だけど、意味は一緒なんで。骨格だろうが。ただ、実際にはもう本格予算に近いですね。もともとの予算自身が少ないから。誰かが指摘されたように、どんなに組もうが、結局骨格に近いものじゃないですか。肉付けの予算もほとんど残ってないんだから。

(議長) そうですね。

○会派運営について

(質問) あと、昨日、通年議会が閉じたんですけど、全体に見てて、さっきの改革先進議会のところの話と関連するんですけど、結局かつては一枚岩を目指したというのが、多分議長とか副議長の、これだけ10会派もあれば、それはなかなか難しいというふうなお答えだと思うんですが、それは確かに一因としてあるにしてもですね、結局、会派、交渉議員の汗かきが、以前に比べれば足りない気がするんですけど、その辺は何かお考えありますか。今の会派構成人員の力不足とかそういうことはおいといても、前はもっと執拗に全会一致に持っていくために、交渉を重ねられてたじゃないですか。

(議長) なかなか難しいコメントでございまして、私の方から申し上げれるのは、やはり10会派あるというのがですね、一番、調整していく中で大変だなというのは、実感させていただいておりますし、やはり選挙区の定数問題の影響というのは、会派が分かれた原因でもあるという経過もありますし、その影響というのも、やはり会派運営の中で、そしてまた議会の調整をさせていただく中で、難しさを感じておるところであります。

(質問) 副議長如何ですか。

(副議長) 会派のですね、その意見をまとめる会派の集約というのが、非常にどの会派を見ておりましたも、時間がかかっているなという感じがしています。それが最終的に少数会派にいくつか分裂していったという要因の一つでもあるんだと思うんですが、それぞれの議員の個人の意見の主張が強すぎてなかなか会派がまとまりにくいというのが現状にあるのかなと。だからその会派をまとめる代表の方の資質が劣っているということではなしに、個々の議員の意見が強く出ているというのが今の現状かなというふうに思っています。

(質問) 来年春に県議選があつて、改選して、今の会派の数か、あるいはもっ

とそれ増えるかもしれないし、あるいはもっと少なくなるか、それは分からないですけど、そこがある程度改善されないとなかなかかつてのような一枚岩は難しいと思っておりますか。お二人。

(議長) 数の問題は改選後の取組だと思われまので、それぞれの取組がされるんだと思っております。議会運営の中で、やはり一人会派というか、会派とは言わないんですけども、一人で会派の形で運営されてみえるという方が非常に多ございますし、やはり少数会派としては、少ない方が意見としても、今、副議長の方からは、会派自体の意見がまとまりにくいついていうご指摘もありましたが、やはり少数会派としては、できるだけ少ない方が議会運営としてはまとめやすいのかなとは認識しております。

(質問) 副議長は如何ですか。

(副議長) 会派運営をですね、もう一度見直す時期が来てるのかなというふうにも思ったりしてます。会派制度というものをね。やはり議会が一枚岩になって執行部と対峙するためには、議会がまとまるのがまず大事ですので、そのためには、会派制度で運用されている三重県議会の場合は、会派の在り方そのものをもう一度、考え直す必要があるんじゃないかなというふうに思ったりはしております。そのやり方としてどうすればいいのか、なかなか難しい問題ですけれども。

(質問) 今おっしゃったのをもう少し具体的に詰めるなら。

(副議長) 例えば、私のおる自民党なんですけども、できたら元の形に戻れるような方策も必要じゃないかなというふうに思いますけどね。

(質問) 例えば、自民党系が3派ありますけど、そこがやっぱりかつてのような自民党一派の形にということですか。

(副議長) そうですね。理想の形になりたいなというふうに。

(質問) それは一人会派は会派として認めないとかいう意味ではないですか。

(副議長) そこまでいく可能性はありますよね、会派の見直しなんかをやっていくと、話をしていくと。

○請願、陳情、意見書について

(質問) 昨日の沖縄に関する意見書にしても、本来ならレギュラーなスタイルってというのは、陳情ないし請願じゃないですか。いきなり意見書求めるという形にすると、陳情、請願という手続き踏み越えてやってきてるんで、逆にいったら請願の重みってというのはなくなるじゃないですか。請願だって、請願が通って、その後、まず国へ意見書のやつをやるわけだから、同一の手続き踏んだ時に、請願だったら常任(委員会) 審査っていうのを経ますけども、経ない形でいきなり意見書ってというのは、非常にイレギュラーで、かといって意見書に色がつくわけじゃないじゃないですか、国へ出す時に。そこのところのそういうイレギュラーなのが、出てきているっていうことについては、どうお考えですか。議長としては。

(議長) 現状の制度の中で、それが認められているというところでございますので、本来であれば、請願、審議を十分させていただいた上で、その上で、意見書のとりまとめというのが、あるべき姿かなと思っておりますけども、今議会でありましたので、今後、この制度としては止むを得ないのかなとは思っておりますけども。

(質問) だから、事前段階で、これは請願ないし、陳情の形にしてくださいよというふうな話ってというのは、紹介議員等のところに議長はお話はされていないんですね。

(議長) 今回はちょっと急な話でした。ちょっとその話をさせていただく、もう確か過ぎてからのお申し出でした。という状況の中で開会日の5時までという期限がありますので、それを過ぎてからなんとかという話だったと記憶しておりますので、整理をするなら次回の本会議になってしまうという経過がありましたので、その話をさせていただくいとまもなかったというところですよ。

○議会経費削減について

(質問) 今回議員報酬とか全体の議会経費の削減ということで、とりあえず旅費規程のところが固まったわけですけど、全会一致ではないにしても、旅費規程の関係、PT のやつ昨日通ったやつで全会一致ではなかったじゃないですか、能動は反対されて。

(議長) そうですね。能動さんが反対されてみえた理由というのは、詳細には聞いておりませんが、過去議会改革推進会議の総会でも反対の主張をずっとされてきましたし、議会改革推進会議役員会の中でも反対されてみえたとお聞き

しておりますので、そういった理由をもとに反対されたのかなと思っておりません。

(質問) 理由は詳しくお聞きしましたが、旅費の部分は1月1日からやって、仮に報酬をこれでやると5月1日からと。となると、4か月分というのは、旧報酬のままでいくというのはおかしいと、要は手ぬるいと、今のPT案は。ということでのご反対みたいだったんですけど、そういうこと含めて結構議論が一枚岩になってない部分があるじゃないですか。

(議長) 議会改革推進会議で議論を深めてきていただいた中での結果でございますので、報酬ではなくて政務活動費として5月からという話でございますので、その部分としてPTの中でどういう議論をしていただけたのか、あるいは、能動さんとしてどう整理をいただいたのかというのが少しそこは聞いておりませんので、結果としては、そういう総会の場で発言もされてみえたとし、結果反対になられたということで、少し残念には思っております。

(質問) 私が言いたい本丸はそれじゃなくて、だからこの経費削減で約1億2000万円くらいでしたっけ、試算では新政みえさんが出されたのがあるじゃないですか。それでいくと、逆にここまで経費削減して、51人確保してるんだから、51の定数のままでいいんじゃないかという議論も成り立つじゃないですか。そのへんの危惧はお持ちじゃないですか。

○第三者機関の設置について

(議長) いや、基本は第三者機関の設置をした中で、削減に向けてあるべき姿を見出しながら、削減に向けて、改選後になりますけど、取り組んでいくべきではないかという思いが私もございますし、そういう動きだと認識しております。だから、報酬、政務活動費を削減することによって51のままでいいという考え方ではないのかなとは思っておりますが。

(質問) それは前田議長の、もともと今年議長におなりになるときに、第三者機関の設置というのを打ち出されたので、それで議長になられている部分があるから、そう思われるのかもしれないですけど、実際問題第三者機関がどういう結論を出すかわからないじゃないですか。実際今法定定数は十分今51でもそれを下回っているわけだから、今のままでもかまわないし、それからいったら、第三者機関への期待感というのが若干大きすぎる気がするんですけど、一応枠はめて定数削減でこれを審査してくださいというふうな枠ははめられるおつもりなんですか、第三者機関ができたときに。

(議長) それは改選後の議論になっていくと思うんですが、枠をはめるというよりはそのときのメンバーであるべき姿を見出し、あるべき報酬なり政務活動費の在り方を検討していくというのが一番ベストではないかなと思っております。

(質問) 確認ですけど、議長の思いとしては、あくまでも議長ご自身も51に賛成されましたけど、今後51を維持するのではなくて、これは削減の方向でいきたいと。第三者機関ができたときも、できたら削減の方向で諮っていたきたいという思いなんですか。

(議長) はい。所信表明からずっとその話はさせていただいているとおりでございまして、第三者機関をつくるということは、1年半議論を深めてきた中であるべき姿が見出せなかったというところの中で、第三者機関を設置した中で、改選後に削減を議員が本来のあるべき姿を第三者機関の意見を尊重しながら見出していくべきだという主張をさせてきていただいております。

(質問) 今期で前田議長は県議を引退されますけど、来春の県議選には出られないということなので、それからいったら、議長の発言はそれなりに重いという話もありますから、これは次の来年改選後の人たち、どなたが議長になるかわからないですけど、そこへ前議長の言葉として申し送りはされるんですね。

(議長) はい。引き継ぎはさせていただきたいと思っております。当然不断の見直しを行っていくという、今からでも間に合うのならば、第三者機関の設置もして検討も深めたいとも思っておりますし、できなければ、引継書にも明記をしながら引き継いでいきたいと思っております。

(質問) 今日100回目の定例会見ということでしたけど、1回目がいつで、どういうきっかけで始まったか、わかりますか。

(事務局) 後ほどご報告します。

(議長) あれ三谷さんの議長のときじゃないですかね、たぶん。

(質問) 岩名さん。

(議長) 岩名さんでしたか。もうそんな前ですか。詳細はちょっと確認して報

告をさせていただきたいと思います。

(以 上) 11時8分 終了